

ホシガラスの食事



8月の早池峰山にて
決まった場所へハイマツの
種子を運んで食べる。

文と写真◎堀野 真一 Horino Shin-ichi

広報普及科

山

で見る鳥の中で、名前を覚えやすい鳥の一種がホシガラスでしょう。生息している地域や個体数が比較的多くて見る機会に恵まれ、ハトほどの大きさで人目につくところをよく飛ぶからです。和名の由来となっている羽根模様もわかりやすく、印象的です。分布は広く、アジア東部からシベリア、ヨーロッパ北部に及びます。日本では各地の高山や亜高山に生息しています。

名

前のとおりカラス科の鳥ですが、平地でよく見るハシボソガラス、ハシブトガラスがカラス属に分類されるのに対し、ホシガラス属に分類されています。英語では *spotted nuthacker* と *'s' nuthacker* は「堅果(ナッツ)を砕くもの」という意味です。実際ホシガラスにとっては松の実が重要な餌で、日本では主にハイマツの実を食べています。

ホ

シガラスがハイマツの実を食べるときは、球果(マツボックリ)をまるごと木からもぎ取ります。これには力が要るようで、バランスを崩しそうになって羽をばたつかせている姿をみることがあります。もぎ取った球果はその場で食べず、決まった場所へ運びます。ハイマツの球果は二年目に成熟しますが、成熟してもあまり開きません。ホシガラスは丈夫なくちばしを器用に使って球果を壊しながら、中の種子を食べます。

厳

冬期でも高山に留まるライチョウとはちがいが、ホシガラスは冬は標高の低いところへ移動します。しかし、春になると早くから戻ってきて、雪の上で昆虫などを探し回って食べている様子を見ることができません。鳥類にとって春は繁殖の季節です。こんど高山に行かれたなら、ぜひ、ホシガラスの姿を探してみてください。♥

強くて器用なくちばし

学名は、*Nucifraga caryocatactes* という。*Nucifraga* も、「ナッツをくだく」という意味がある。



8月の五葉山にて
コメツガの樹上で朝
日を浴びる。

